

9/16 朝日

これが民主主義潰さないで

看護師

(大阪府 33)

安全保障関連法案を17日にも採決する方針という報道にいてもたってもいらねえ、18日に大阪の観公園であった反対デモに、73歳の母と小2の娘と参加しました。

デモに参加するのは7月に続き2回目。娘は「戦争なんかイヤだ、デモに行く」と背中を押してくれました。集会では学生グループ「SEALDs KANSAI」などが呼びかけたもの。高校生が自分の言葉で法案への不安を語ったのが印象的でした。そして同じ思いを持つ、幅広い世代の多くの人々と連携し声をあげた時、私も社

会が「ねのき」へ、動かしているかも」といふ実感を持って来た。御堂筋を進行した時、「民主主義ってなんだ? これだー」というコールがありました。特定秘密保護法やマイナンバー制度など、個人が国に見張られる恐怖を感じます。こっぴつて声をあげられる社会を潰さないでください。

私は義務教育の中で憲法9条の理念を学び、誇りに思ひ、力ではなく対話で争いを解決していく大切さを学びました。安倍晋三首相、憲法9条を持つ国として、「力には力を」でははなく、世界に率先して対話による平和を実現することはできませんか。

戦争の非情 体験のない軽さ

無職

(滋賀県 88)

1945年6月、私は大阪城内にあった大阪陸軍造兵廠(大阪砲兵工廠)に、神奈川の陸軍兵器学校から1カ月の出張を命じられ、着任早々に空襲に遭った。防空壕に入ったが満員で、勤労奉仕の地元(の)の女学生10人ぐらいが入れずにいた。中にいた他の兵と共に外に出て、女学生たちを壕に入れ、私たちは石垣に身を寄せた。

遮るものもない天空から、敵機が爆弾を落とすのを見るしかなかったが、事なきを得た。しかし私たちと交代して壕に入った女学生を含む数人が、入り口近くにいた

ため犠牲になった。善意があたなり、何の罪もない女学生が殺される結果となった。戦争とは、かくも非情で非合理なものである。

安倍晋三首相を始め、今の日本の政治を動かしている方々は、戦争を知識として承知されているも、経験はされていない。自衛隊の将官といえども実戦経験はお持ちでない。憲法に背き、今まで以上に自衛隊を海外に派遣しようという安倍首相には、戦争を経験したことのない人の軽さを感じる。憲法を順守し、出来る範囲で米軍を支援するのが本筋ではないか。自衛隊は災害救助など、国民の生活に資する隊であってほしい。

公聴会 通過儀礼でいいのか

無職

(大阪府 82)

安全保障関連法案をめぐる有識者や市民から意見を聞く中央公聴会が15日に開かれた。報道によると、与党は16日に地方公聴会を開き、当日中にも参院特別委員会で採決、17日を軸に本会議で成立させる方向で調整しているという。

この日程では中央、地方の両公聴会は、法案成立のための通過儀礼になってしまふ。公聴会での公述人の発言内容に対する政府の見解は示されず、その見解を受けての審議も予定されていない。公述人が何を言おうと、すべて「馬耳東風」

扱いでよいのだろうか。

「そんなことは今始まったわけではない」との声もあるだろう。しかし安保法案は、今までの憲法解釈を覆し、憲法学者ら多くの専門家から連環と指摘されている。政府与党は、国民の理解を得るために丁寧な説明し、丁寧に国会審議をすると言ってきた。その審議が従来通りでまかり通るとは許されない。

安保法案については、新聞を切り抜きするなど、これまで以上に注目してきた。審議時間は積み重なってきたが、国民の心配に政府はまともに答えておらず、廃案にすべきだ。